

國語

解答と解説

(配点)

①〔問一〕	各2点、〔問六〕	各3点、他各5点	} 計150点
②〔問一〕	各2点、〔問八〕	7点、他各5点	
③④⑤	各2点		

		5		4		3					
⑥	復活	65	①	通貨	60	①	両	55	①	エ	50
⑦	卷末	66	②	支障	61	②	深	56	②	ウ	51
⑧	典型	67	③	装置	62	③	明	57	③	ア	52
⑨	帯	68	④	防衛	63	④	点	58	④	オ	53
⑩	拝	69	⑤	恩師	64	⑤	外	59	⑤	イ	54
										問九	
										ア	
										イ	
										ウ	
										エ	
										オ	
										問十	
										イ	
										問十一	
										ウ	
										問八	
										生	
										何	
										っ	
										バ	
										き	
										が	
										て	
										ラ	
										抜	
										起	
										も	
										ツ	
										く	
										こ	
										全	
										キ	
										こ	
										る	
										減	
										を	
										と	
										か	
										し	
										生	
										が	
										わ	
										な	
										み	
										で	
										か	
										い	
										出	
										き	
										ら	
										よ	
										し	
										る	
										な	
										う	
										何	
										か	
										い	
										に	
										か	
										自	
										す	
										事	
										ら	
										。	
										然	
										れ	
										故	
										界	
										ば	
										が	
										を	
										、	
										あ	

43
44
45
46

【解説】

1 五十嵐美伶の『15歳の昆虫図鑑』（講談社）から出題しました。

グループのリーダーである咲の機嫌をうかがって言いたいことを我慢することの多い中学三年生の「わたし（鈴木真優）」は、みんなから少し距離を置かれている吉岡さんという同級生と一緒にホテルの住む川をきれいにするボランティアに取り組むことになりました。「わたし」は昆虫好きな吉岡さんとの会話を通じ、自分がそれまで過ごしていた環境にしがみつくなが必要がないことに気づいていきます。つらさや苦しさを抱えて過ごしながら少しずつ前向きになっていく主人公の様子を読み取りましょう。

問一 B1 関係づけ 比較

適当な副詞を空らんに入れる問題です。

i 「わたし」は吉岡さんと会話しながら思わず泣きそうになつており、どうにかこらえています。このことから、エ「ぐっと」が入ります。

ii この場で、「わたし」は咲を女王蜂に見立て、咲の機嫌をとろうとして必死にあれこれ動き回る自分の様子を「蜜を集める、下つ端の働きバチ」と表現しています。以上のことから、ア「せっせと」が入ります。

iii 吉岡さんに言われたことを思い出しながら、自分が今いる環境やそれにどう対応していくべきかを「わたし」が考えている場面です。少しずつ「わたし」の心境が変わっていることに注目すると、オ「だんだんと」が入ります。

問二 B1 具体化 比較

ため息をつく、という動作は相手にあきれた時や何かがうまくいかず怒りを押し殺すようなマイナスの心情の表れとしてよく出てきます。ただし、この場で吉岡さんがマイナスの心情を向けているのは自分自身です。いつもと同じように思っていることをよく考える前に言ってしまう、その結果「わたし」を泣かせてしまった自分自身に情けなさのようなものを感じているのです。したがって、ウが正解となります。ア「腹を立てている」、イ「『わたし』の身勝手さに気づき、あきれている」、エ「かわいそうに思っている」がそれぞれ誤っています。

問三 B1 理由 比較

「ハツとする」理由は、——線②の直後に「彼女はそれがコンプレックスなのだから、触れられたくない部分だったかもしれない」とはっきり書かれています。また、この言葉は自分の本心から出た言葉であることも、同じ部分に書かれています。以上のことから、ウが正解となります。ア「吉岡さんと同じだ」、イ「別の苦しみを抱えてしまいそうだと思った」、エ「本心から出た言葉ではないことを見破られてしまうのではないか」がそれぞれ誤っています。

問四

1 B1 具体化 関係づけ

「わたし」が自分自身をミツバチだと思った理由については、——線③の前に書かれています。グループのリーダー的存在である咲の機嫌がよくなるようにと考えながら発言

を選ぶ自分の様子と、女王蜂のためにせっせと蜜を集める働きバチの様子を重ね合わせています。字数の条件も考えながらこれと同じ内容を探していくと、——線①の前に「咲の機嫌を取るために」という表現が見つかります。
※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2

B1 具体化 関係づけ

問一でみたように、——線⑥の後で吉岡さんは「わたし」をコセアカアメンボにたとえた意味を説明しています。自分の今いる環境に適応する力が高くてすごい、という内容をふまえ、字数条件を合わせて検討しましょう。
※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五

A2 知識 比較

一見すると別のものであるように見えるが実際は似ている、という内容を表す四字熟語を選ぶ問題です。アはやたらと人の意見に合わせようとする、ウは仲の悪い者どうしが同じ場所にいること、エは他人どうしが心を一つにしている状態を表す言葉です。

問六

A2 知識 比較

語句の意味を答える問題です。まずは辞書の意味を知っていることが重要ですが、辞書の意味を意識したうえで、その文脈ではどのような意味になっているか、ということも合わせて考えましょう。

⑤ 「察知」は一字ごとにとらえると「察する」「知る」となるように、「見たり聞いたりしたことから何かをおしはかって知る」という意味の言葉です。したがって、エが正解となります。

⑦ 「面と向かう」は相手と直接向かい合って何かをする様子を表す言葉です。したがって、イが正解となります。

問七

B1 理由 比較

ここでの吉岡さんの心情は、——線⑥直後の「伝わらなかつたんだ」という発言や「しょんぼりした声」によく表れています。吉岡さんとしては、「わたし」をアメンボに似ていると表現した自分の発言は考えるまでもなくきちんと伝わっていると感じており、まさかどういう意味かを聞かれるとは思っていませんでした。したがって、エが正解となります。
ア「『わたし』の気分を害してしまった」、イ「誰でも知っているはずのことを話した」、ウ「質問してくれたことがうれしかった」がそれぞれ誤っています。

問八

B1 関係づけ

⑧ 直後の「相手に合わせて過ごしている」を四字で表現した言葉を探します。少し離れていますが、1ページ下段で吉岡さんが「わたし」に言い放った「八方美人」がその様子をもっとも的確に表現しています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九

B2 具体化 比較

「ストンと、心の中になにかが落ちた」とは、あることがすんなり受け入れられたという意味の表現です。関連表現として「腑に落ちる／腑に落ちない（腑とは内臓のこと）」という表現や「腹に落ちる／腹落ちする」という表現も覚えておくといひでしょう。「わたし」が何をすんなり受け入れたのかということとは、——線⑨の直後に「そんな『合わない』場所でもわたしは泳げる」「別の場所でも、うまくやっていけるかもしれない」という形ではつきりと書かれています。したがって、イとウが正解となります。ア「他人と比べてかなり恵まれた環境にいたのだ」、エ「一刻も早く抜け出るべきだ」、オ「何を言うにも周りの目を気にして顔色をうかがっていた環境こそが」がそれぞれ誤っています。

2

稲垣栄洋『遺伝子はなぜ不公平なのか?』（朝日新書）から出題しました。

多様で複雑なものを理解するために、私たち人間が物事をそろえたり、並べたり、比べたりしてシンプルな形に加工していることを指摘した文章です。さらに、植物に備わった多様性が人間の管理という点では不便なものになることにも言及しています。

問一

B1 関係づけ 比較

空らんにとっては何まる接続詞を考える問題です。前後の内容をおさえ、それぞれのつながり方をおさえながら考えていきましょう。

《1》の前では、動物について「生殖的に隔離されている」とはどういうことかが説明されています。これを受けて直前の行に「それでは、植物はどうだろう」とあり、その具体例としてササユリとヤマユリの話が続いています。したがって、ウ「たとえば」が入ります。

《2》の直前に、「ササユリとヤマユリは、まったく別のユリである」とあります。直後には「この地域で見ていると、ササユリとヤマユリの区別はまるでないようだ」という内容が続いています。前後が逆の内容になっていますから、エ「しかし」が入ります。

《3》の前には、植物における木と草の分類がじつはややふやなものであるという内容が書かれています。後に続く部分では、イルカとクジラの分類も実はあやふやであることが書かれています。分類のあやふやさを指し示す実例として二つのものから選択するような形になっていますから、ア「あるいは」が入ります。

問二

B1 具体化 関係づけ

人間の作った分類について筆者がどのように考えているかを問う問題です。——線①の近辺を探して見つからなくても、「分類」というものに対して筆者が何らかの評価、感想を述べている部分を意識しながら根気よく探しましょう。9ページ上段に「私たちの分類というものは、じつはあやふやである」という表現があります。また、9ページ上段に「分類して、整理して、何とか理解しようとしている」という二十三字の

表現がありますが、ここには「評価」がふくまれていないため答えにはなりません。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問三

B1 具体化 関係つけ

——線②の意味をよりくわしく言い換えた表現を探す問題です。言葉自体はやや難しいですが、直後に「たとえば」で具体例が挙げられていることから、ここをもとに考えるといでしょう。「つまり」に注目すると、同じ種どうしでしょうか子が作れないことが「生殖的に隔離されている」の意味であることがわかります。これと字数の条件を合わせて続く部分を読んでいくと、8ページ下段に「異なる種どうしでは、子孫ができない」という表現が見つかります。

問四

B1 関係つけ 比較

③の直後に「ラバは子孫を残すことができない」とあることから、ラバは別の種どうしでできた子どもでもあるものの、その後同じように子孫を残せず消えてしまう種であることがわかります。また⑨は、誰がつけてもできるだけ同じになるように米の味を評価するという話に対する筆者の感想です。以上のことからエ(③一時的、⑨客観的)が入ります。

問五

B1 関係つけ 比較

④の直前の行に「そんなもの区別でも何でもなし」と書かれていることから、筆者はこの分類について本質的には

区別になっておらず、分類した人物がそうだと言い張っているだけ、という印象を持っていることがわかります。したがって、イが正解となります。

問六

B1 具体化 関係つけ

「そろえたり、並べたり、比べたり」という表現は、本文冒頭にも出てきています。この部分で筆者は、それらの作業が人間にとつて、多様で複雑なものを理解する手助けとなっていることを示しています。このことと字数の条件を合わせて7ページ下段を読み進めると、「シンプルな形に加工する」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七

B1 関係つけ

筆者はこの部分で、「そろえたり、並べたり、比べたり」という、人間が多様で複雑なものを理解するためにやっていることが、理解とは別の面で便利であることを指摘しています。⑥に続く部分を読み進めると、イネの具体例を挙げて植物を「管理する」際にそれらの行動が役立っていることが示されています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八

B2 理由 推論

使用するよう指示されている「バラツキ」という言葉は、10ページ上段に出てきています。また、10ページ下段には少

し形を変えて「バラついていた」という表現も出てきています。植物にとって多様性がなぜ大事かについて答えるわけですから、「バラツキ」と多様性がどう関連するかを考えましょう。

このあたりをていねいに読むと、「バラツキ」が多様性を生んでいることがわかります。「二」齊に熟せば、そのときに何か事故があれば全滅してしまう」とあることから、熟す時期に「バラツキ」があればそのような事故があっても全滅しなくてすむ、と読み取ることができます。このように「何が起るかわからない自然界」において、「バラツキ」を持つことで全滅の可能性を減らせることが、植物にとって多様性が重要であるといえる理由なのです。「バラツキがあると全滅の可能性が減ること」「何が起るかわからない自然界を生き抜くために必要であること」を字数に合わせてまとめましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問九

B2 抽象化 比較

「」を用いた表現は、引用や強調の他に、筆者がその言葉を本来の意味とは異なる意味で、多くの場合皮肉や反発の意をこめて使っていることを示します。すなわち、ここで筆者は人間によって多様性を失われ管理しやすくされた米について、人間の側からみればもちろん便利だが、人間以外の立場から見れば「良い」とだけ表現することはできないと考えていることがわかります。したがって、アとオが正解となります。イ「そちらに目を向けるべきだ」、ウ「評価する人

しだいで大きく変わってしまう」、エ「一刻も早くもとの状態にもどすべきだ」がそれぞれ誤っています。

問十

B1 関係づけ

抜けている文をもとの場所にもどす問題です。ヒントは抜けている文自体にあります。指示語や接続語、キーワードに注目しながら、どのような内容が書かれた部分とこの文がつながるかを検討しましょう。また、必ず実際に文をもどして読み直し、前後の内容が問題なくつながるかどうかなを確認しておきましょう。

「そうしなければ」の「そう」が何を指しているかを意識し、「ア」「エ」の直前の部分を確認しましょう。評価するために必要なことが書かれているのは、「イ」直前の「一枚のテスト」で成績をつけることです。

問十一

B1 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。本文のどの部分をもとに作られた選択肢かを考え、実際に本文にもどって照らし合わせ、正誤を判断しましょう。

ウの内容は9ページ下段に書かれている内容と一致しています。また、ア「未知の生き物が二〇〇万種類ほどこいいる」、イ「時と場合によって」、エ「もともとのイネに戻すべきである」がそれぞれ誤っています。

3

A1 知識 比較

①～⑤の熟語と同じ組み立てになっているものをそれぞれについて選ぶ問題です。上の字と下の字にわけ、それぞれがどのような関係で一語を作っているかを考えましょう。

4

A1 知識

①～⑤の□に適切な漢字を補って四字熟語を完成させる問題です。音だけでなく意味も合わせて覚え、漢字で書けるようにしておきましょう。